

市町村未来づくり交付金自己評価調書

1 事業群評価調書

団体名：乙訓消防組合

重点目標	<p>高度情報化の進展や社会環境が大きく変化するなか、火災予防施策を積極的に推進し、火災の減少を目指すとともに、住民の命を守る救急救助体制の一層の充実に努め、災害危機管理に対する取り組みの強化を図る。住民の生命、身体及び財産を災害から守る「消防の使命達成」に向けて、各関係機関と連携を強化し「災害に強い 安心・安全な街づくり」を推進する。</p>		
	事業群	構成事業名	
救急業務高度化推進事業		高度救急処置シミュレーター整備	
事業群全体による 成果の概要	<p>高度救急処置シミュレーターを整備することで、より充実した訓練が可能となり、救急隊員の技術及び知識の向上を図ることができた。また、管内の各消防署で共用することにより、効率的な訓練用資機材の配備ができた。</p> <p>※本年度の成果について、客観的な数値により評価できる場合は下欄に記入すること。また、複数の指標がある場合は適宜欄を追加すること。</p>		
	成果指標	実績値	
	指標式等		

(記載要領)

- 1 重点目標、事業群ごとに本様式を作成し、評価するものであること。
- 2 成果の概要については、できる限り客観的な数値によること。

2 個別事業評価調書

団体名: 乙訓消防組合

事業名						
事業の概要	乙訓消防組合には高度救急処置シミュレーター(訓練用人形)が各消防署に配備されているが、これらはすべて経年劣化による損傷が激しく使用に耐えられない状態である。そのため、当組合に1台を配備し、管内の各消防署で共用することにより、救命処置の訓練ができるようになるもの。					
	事業期間	平成21年6月11日(契約日)～平成21年6月30日(納入及び検収日)				
	総事業費	1,801	本年度事業費	1,801	交付金交付額	900
事業評価	事業の必要性	現在、当組合には高度救急処置シミュレーター(訓練用人形)が各消防署に配備されているが、これらはすべて当組合発足(平成13年度)以前に、二市一町の各消防本部でそれぞれ購入したものである。そのため、経年劣化による損傷が激しく使用に耐えられない状態であるので、当組合に1台を配備し、管内の各消防署で共用することにより、救命処置の訓練ができるようになる必要がある。				
	事業の有効性	高度救急処置シミュレーターを整備することで、より充実した訓練が可能となり、救急隊員の技術及び知識の向上を図ることができる。				
	事業の効率性	当組合に高度救急処置シミュレーターを1台配備し、管内の各消防署で共用することは、効率的な訓練用資機材の配備になる。				
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果				
		2 住民の自治意識を高める成果 高度救急処置シミュレーターを用いた訓練成果を救急救命講習に反映させることにより、住民の救急救命に対する意識を高めることが可能となった。				
		3 リーディング・モデル成果				
4 広域的波及成果 訓練によって救急隊員の技術及び知識が向上することにより、広域に及ぶ大規模災害や特異災害への災害対応力が強化されて被害の軽減につながり、より多くの地域住民に安全と安心を提供することが可能となった。						
5 行財政改革に資する成果						
6 その他の成果 救急業務高度化推進計画の目的として掲げている、救急業務の更なる高度化・救急隊員の資質の向上させることができた。						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。